

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成29年7月～令和5年3月（5年9月）

1. 計画期間終了後の中心市街地の概況

本市は平成29年7月に第二期計画の認定を受け、「訪れたい、住んでみたいまち」をテーマに掲げ、計画に基づいた事業に取り組んできた。

中心市街地活性化に向けたハード事業のうち公共施設としては、令和3年3月に安満遺跡公園が全面開園を迎え、令和5年3月には高槻城公園芸術文化劇場がオープンしている。

安満遺跡公園では、季節を問わず大小さまざまな種類のイベントが開催されており、市内外の来園者により、街のにぎわいが創出されている。高槻城公園芸術文化劇場では、多数の公演・イベントが開催されており、館内のカフェや隣接する高槻城公園が憩いの場として利用されている。公園と文化劇場の両施設が市民交流の場と文化芸術の創造発信拠点として機能し、多くの市民が集うことで、街のにぎわいと魅力を向上させる拠点となっている。

ハード事業のうち民間の取組としては、令和2年8月にJR高槻駅前の市有地へ誘致した株式会社アバストコーポレーションがホテルアバストグランデ高槻を開業した。令和2年度以降の新型コロナウイルスの影響から客室稼働率が低下する苦境もあったが、法人営業部の新設によるテレワーク・オンライン会議対応メニューを追加するなどの創意工夫も奏功し、令和4年度末には客室稼働率が通常の水準まで回復し、中心市街地の来街者の増加に寄与している。

ソフト事業としては、中心市街地活性化協議会が主体となって「たかつき活性化塾」が実施され、中心市街地の商店街が抱える課題の整理を行ったうえで活性化に向けた方策を検討する中で、既存イベントを活かし、本市マスコットキャラクター「はにたん」を活用したスタンプラリーや商店街を含む近隣のエリアマップ作成など、新たな取組が展開された。

また、中心市街地では年間を通じて多数の集客イベントが開催されているが、既存商店の売上など地域商業の活性化に繋がっていないという課題があったため、「たかつきアート博覧会」では目指すべき方向性を定めたビジョンを策定したほか、高槻城北通商店街では商店街としてのブランドイメージの確立に向けたロゴデザインの作成と商店街の店舗巡りを促すシールラリーを実施し、イベントをきっかけとして継続的に商店街を来訪する仕掛けづくりに取り組んだ。

このように、官・民を問わず多様な実施主体がハード・ソフトの両面で中心市街地の活性化に向けた取組を進めてきた。

一方で、中心市街地における歩行者通行量をはじめとする3つの目標指標については、いずれも目標値および基準値を下回る結果となった。令和2年に新型コロナウイルス感染症が世界規模で流行し、政府主導で人流の抑制が図られたことから、本市においても通行量が大きく減少したほか、新規出店の機運にも大きな影響が出たものと考えられる。

本市においては、前述の多彩な取組により生み出された「街のにぎわい」や「まちづくりの機運」を活かして、引き続き中心市街地の魅力向上や更なる活性化を図ってゆくことが必要と考えられる。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度3月31日)

(中心市街地 地区域)	平成28年度 (計画前年度)	平成29年度 (1年目)	平成30年度 (2年目)	令和元年度 (3年目)	令和2年度 (4年目)	令和3年度 (5年目)	令和4年度 (6年目)
人口	19,706人	19,866人	19,977人	20,046人	20,315人	20,323人	20,309人
人口 増減数	563人	160人	111人	69人	269人	8人	▲14人
自然 増減数	242人	76人	132人	▲17人	18人	▲64人	▲152人
社会 増減数	321人	84人	▲21人	86人	251人	72人	138人
転入者数	1,443人	1,334人	1,314人	1,417人	1,465人	1,312人	1,305人

(2) 地価

(単位：円/㎡) (毎年度1月1日)

	平成28年度 (計画前年度)	平成29年度 (1年目)	平成30年度 (2年目)	令和元年度 (3年目)	令和2年度 (4年目)	令和3年度 (5年目)	令和4年度 (6年目)
中心市街地 商業地域平均	375,000	388,000	410,000	433,000	441,000	444,000	448,000
中心市街地 近隣商業地域	359,000	368,000	380,000	398,000	404,000	412,000	412,000
中心市街地 住居地域	199,000	203,000	212,000	222,000	228,000	228,000	235,000

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね予定通り進捗・完了した ② 予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- ① 活性化した
 ② 若干活性化した
 ③ 計画策定時と変化なし
 ④ 計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

計画していた75事業のうち【55】事業が完了し、【17】事業が着手・実施中であり、全事業数における完了事業の比率は【73.3】%、着手済の比率は【96%】であり、事業全体としては概ね予定どおり取り組まれたと考えられる。

一方で、目標指標に関しては、「来街機会の増加と回遊性の向上」における「(1)歩行者・自転

車通行量」、「(2)歴史・文化施設の年間利用者数」並びに「経済活力の増進」における「(3)中心市街地の新規出店数」については、目標値及び基準値を下回る結果となった。

これらの目標値と結果の乖離は、計画期間中に猛威を振るった新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言等の行動規制により、施設の臨時休館や利用人数制限などの外出自粛要請が長く続いたため、外出・施設利用機会が減少したことが第一の要因と考えられる。

一方で、感染拡大リスクがピーク時より低下したとみられる令和4年度について「(1)「歩行者・自転車通行量」は平日に限ってみると、目標値を上回る数値が確認されており、今後も取組を継続することで、にぎわいの持続・向上が期待される。

「(2)歴史・文化施設の年間利用者数」については、従来の文化施設「市民会館」が令和4年7月に閉館したことで、令和4年度の利用者数は大きく減少した。その後、令和5年3月に「高槻城公園芸術文化劇場」の供用が開始されたことにより、計画策定時の課題であった中心市街地南部における「目的地となる拠点の強化」や「拠点間の回遊性の向上」が図られる礎が築かれた。

「(3)中心市街地の新規出店数」については、引き続き新型コロナウイルスの影響を受け続けており、昨今の物価高騰等も相まって、創業機運や出店意欲が低下していることが懸念される。

新型コロナウイルス感染症がもたらした影響は甚大であったものの、計画期間終盤には回復の兆しを見せており、「ホテルアバストグランデ高槻」「安満遺跡公園」「高槻城公園芸術文化劇場」といった大型の宿泊施設、都市型公園、文化施設などの資源を活用したにぎわい創出のための取組を継続することが、本市中心市街地における活性化の道筋と考えられる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

中心市街地活性化協議会を代表し、会長及び副会長から次のような意見が提示された。

計画全体として、事業者や関係団体・行政などが協議・連携しながら中心市街地の活性化に向けて取り組んだ結果、事業は概ね順調に実施されたと考える。

計画期間中には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が長期間にわたり外出自粛、飲食店等への時短営業要請等が経済活動に大きな影響を与えた。また、ウイルスの新たな変異株が続々と発生し、感染拡大の出口が見えない中での厳しい社会情勢の中で事業を進めることとなった。

ハード整備① 令和2年8月に芥川町の市有地に誘致した「ホテルアバストグランデ高槻」が開業し、大型の宴会・会議施設を備えたホテルとして、市外からの来街者増に寄与している。

計画期間中には、新型コロナの影響による一般利用客の減少への対策として、新たに法人企業営業部を設立し、オンライン会議などに対応したメニューを取り揃えるなどの取組により、利用客の確保を図っている。

ハード整備② 令和3年3月に全面開園した「安満遺跡公園」では、新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも継続的にイベントが開催され、中心市街地の活力向上に貢献し、来街機会の増加に大きな役割を果たしてきた。今後も魅力ある都市公園としての情報発信力を活かし、地域の活性化につながる取組が期待される。

ハード整備③ 令和5年3月に「高槻城公園芸術文化劇場」が開館し、イベント・コンサート等が順調に予定され、来街者の増加による街の活性化に大きな期待を寄せている中、商業地への回遊性につながる更なる取組が期待される。

ソフト面では、「アート博覧会の活性化」、「商店街におけるブランド構築」、「安満遺跡公園イベントと商業地の連携強化」などの事業を実施することで、街のにぎわいを生み出す取組を行った。

計画期間中には、これらハード面の整備と、それを基盤としたソフト面の取組とを一体的に推進することで、中心市街地全体の活性化を図ってきた。今後は、JR高槻駅南側の再整備に向けて地権者・事業者等で協議を進められることが期待される。

中心市街地の活性化を効果的・効率的に推進するためには、社会情勢や地域の実情に応じて柔軟に対応する必要があることから、当協議会としても、官・民を交えた各機関の連携を強化するとともに、引き続き街の魅力向上に向けた活動を促進したいと考えている。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ① 活性化した
- ② 若干活性化した
- ③ 計画策定時と変化なし
- ④ 計画策定時より悪化

計画開始年度である「5年前(平成29年度)」と比較して、各項目について中心市街地に関して増加したか、減少したか」という設問に対する市民の回答は、下表及びグラフのとおりとなった。

「利用頻度」や「買い物やイベントのにぎわい」などの項目は「減少した」が多くなっており、新型コロナウイルスによる外出控え等の影響が続いていたことが伺える。

一方、計画策定時に実施した市民アンケートにおいて「より一層の充実が必要な施設」として多く挙げられていた「医療機関」や「駐車場、駐輪場」については「増加した」との回答が多くなっているほか、「防災面」、「防犯面」、「居住環境」、「公共交通の利便性」についても増加しており、結果として「歩きやすさ」も増加していることから、ニーズに沿った都市機能増進の取組が行われたと言える。

「大型店の魅力」及び「魅力的な飲食店」については「増加」「減少」の双方が高い数値となっており、店舗の新陳代謝が進んだ結果と推察される。

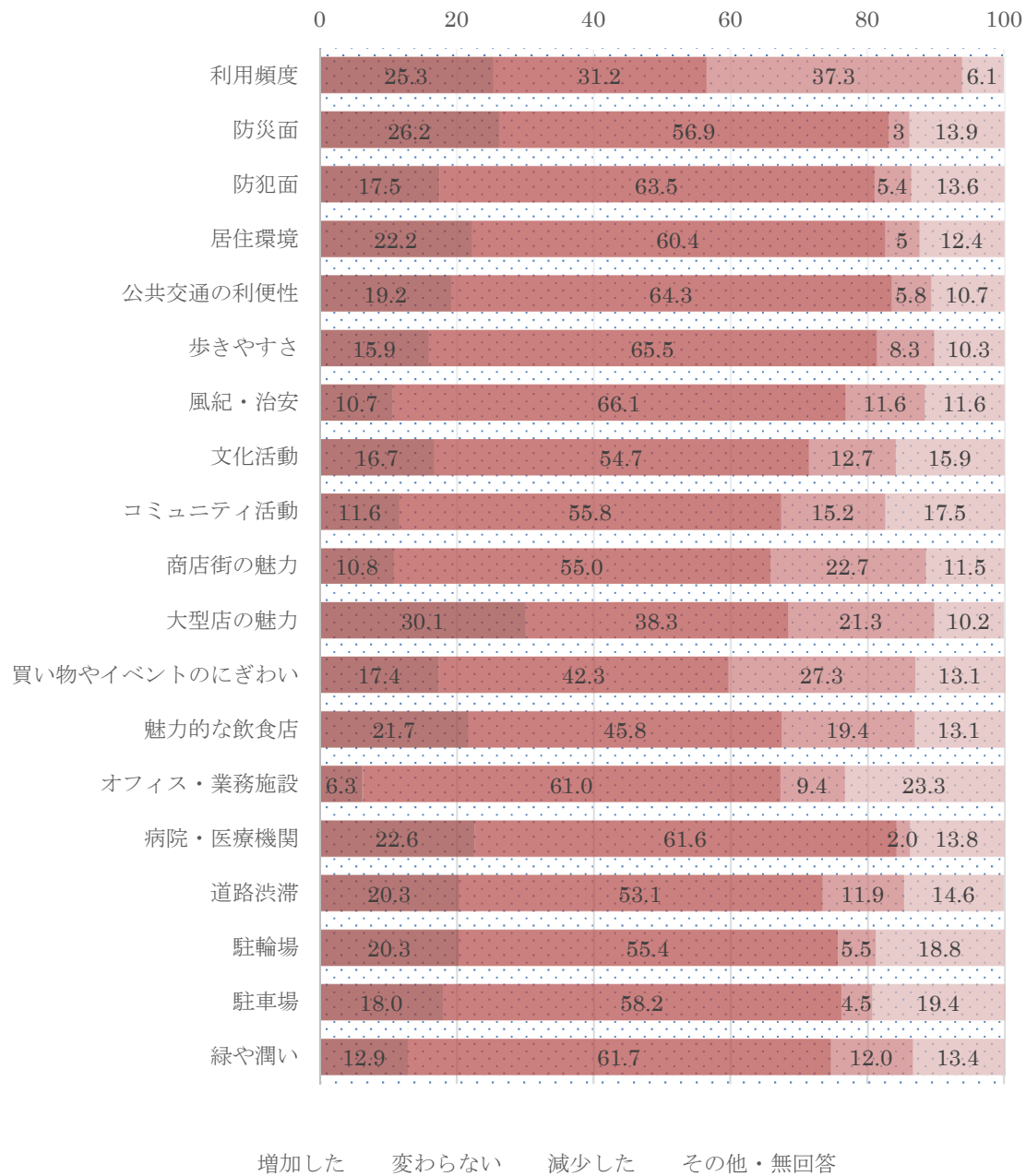
【詳細】

- ① 調査名 高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査（意識調査）
- ② 調査対象 高槻市に居住する18歳以上85歳未満の男女
- ③ 調査方法 郵送調査

- ④ 計画標本 2,000人
 ⑤ 回答者数 1,214人
 ⑥ 調査期間 令和4年8月25日から令和4年9月9日

質問No.	質問内容	回答(%)			
		増加した	変わらない	減少した	その他・無回答
Q6	利用頻度	25.3	31.2	37.3	6.1
Q7A	防災面	26.2	56.9	3	13.9
Q7B	防犯面	17.5	63.5	5.4	13.6
Q7C	居住環境	22.2	60.4	5	12.4
Q7D	公共交通の利便性	19.2	64.3	5.8	10.7
Q7E	歩きやすさ	15.9	65.5	8.3	10.3
Q7F	風紀・治安	10.7	66.1	11.6	11.6
Q8A	文化活動	16.7	54.7	12.7	15.9
Q8B	コミュニティ活動	11.6	55.8	15.2	17.5
Q8C	商店街の魅力	10.8	55.0	22.7	11.5
Q8D	大型店の魅力	30.1	38.3	21.3	10.2
Q8E	買い物やイベントのにぎわい	17.4	42.3	27.3	13.1
Q8F	魅力的な飲食店	21.7	45.8	19.4	13.1
Q8G	オフィス・業務施設	6.3	61.0	9.4	23.3
Q8H	病院・医療機関	22.6	61.6	2.0	13.8
Q8I	道路渋滞	20.3	53.1	11.9	14.6
Q8J	駐輪場	20.3	55.4	5.5	18.8
Q8K	駐車場	18.0	58.2	4.5	19.4
Q8L	緑や潤い	12.9	61.7	12.0	13.4

市民意識調査(5年前の中心市街地との比較)



6. 今後の取組

本計画の取組により、前計画（平成21年12月～平成27年3月）から官民が一体となって進めてきた中心市街地活性化の取組はハード・ソフトともに大きく形作られた。

前計画では JR 高槻駅北東地区のまちづくりを核とした活性化を図った。その結果、JR 駅北側（駅北エリア）には医療機関、大学、集合住宅などの新たな都市機能とにぎわいが創出され、居住人口も大幅に増えるなど本市の玄関口にふさわしい空間が形成された。

一方で JR 以南（駅間エリア、駅南エリア）についてはにぎわいの波及効果が十分に市民に実感されないなど、一部で課題を残す形となった。

前計画終了後、課題の再整理と新たな活性化の方向性を議論する期間を経て策定されたのが本

計画（平成 29 年 7 月～令和 5 年 3 月）である。

本計画では、前計画で整備された都市機能や官民による中心市街地活性化に向けた機運などを引き継ぎつつ、中心市街地全体ににぎわいをもたらすため、来街機会の増加と回遊性の向上、ならびに経済活力の増進について一体的に取り組んだ。

計画期間中には本市の新たなランドマークである安満遺跡公園に関わる事業者・団体をはじめ、市有地に誘致したホテル事業者など、中心市街地のにぎわいに資する多様な主体も新たに生まれている。

結果として、目標指標はいずれも目標値に届かなかったものの、「(1)歩行者・自転車通行量」は平日に限っては目標値を上回っており、「(2)歴史・文化施設の年間利用者数」についても新たにオープンした高槻城公園芸術文化劇場について多くの利用が見込まれている。

また、「(3)中心市街地の新規出店者数」については、上記 2 指標の高まりが中心市街地全体の商業的ポテンシャル向上となり、新規出店の機運を再び上昇させることが課題と言える。

さらに本市では平成 30 年に自治体としては初めて、公益社団法人日本将棋連盟と包括連携協定を締結し、以来「将棋のまち」として各種取組を推進している。

特に、令和 6 年に本市への移転が予定されている関西将棋会館の開館に関しては、中心市街地の商店街、百貨店など多くの市民・事業者が関心を寄せており、これを契機とした更なるにぎわいの創出が期待される。

こうした動きも踏まえ、これまでの取組を活かしつつ、効果検証を継続していくことが重要であることから、目標の達成状況に関する評価を行い、PDCA サイクルを継続する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標達成の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値	達成状況
(1)来街機会の増加と回遊性の向上	(1)歩行者・自転車通行量 (人/日)	72,970 人/日 (H28)	77,300 人/日 (R4)	76,434 人/日	71,741 人/日 (R4.10)	C
	(2)歴史・文化施設の年間利用者数(人/年)	161,601 人/年 (H26)	197,000 人/年 (R4)	189,920 人/年	58,226 人/年 (R5.3)	C
(2)経済活力の増進	(3)中心市街地の新規出店数(計画期間累計件数)	30件 (H22~27)	51件 (H29~R4)	47件	19件 (H29.7~R5.3)	C

<達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

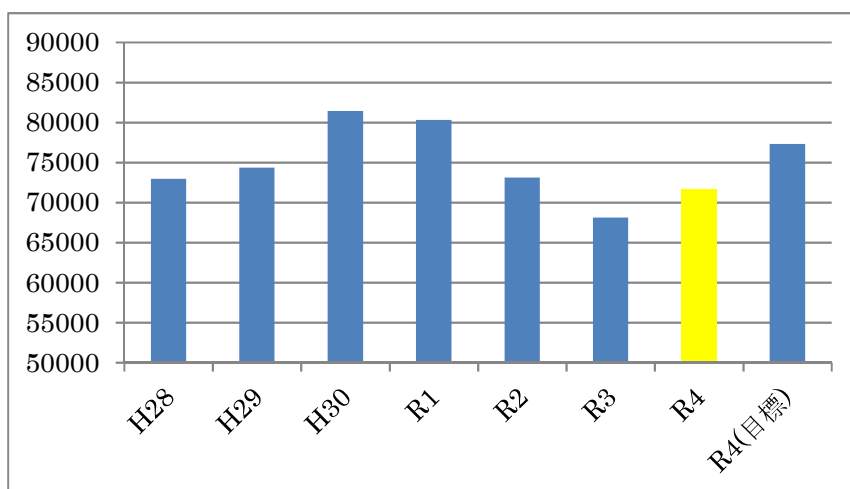
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。（注：小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

※目標設定の考え方：認定基本計画 P.70、P.72~77 参照

目標指標（1）歩行者・自転車通行量（目標の達成状況【未達成】）

●調査結果と分析



年	(単位)
H28	72,970 (基準年値)
H29	74,368
H30	81,442
R1	80,315
R2	73,097
R3	68,108
R4	71,741
R4	77,300 (目標値)

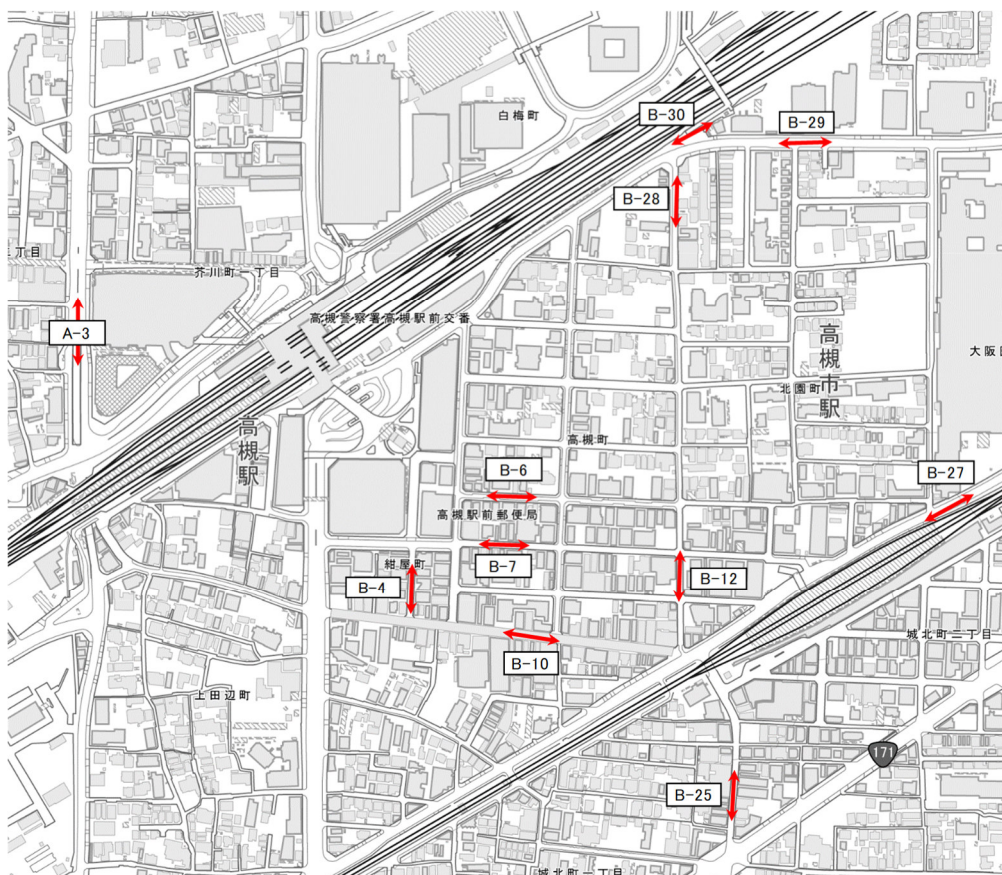
※調査方法：中心市街地11地点における歩行者・自転車通行者数を毎年10月頃の平日と休日の2日間にわたって、午前10時から午後7時まで計測し、2日分の平均値を算出。

※調査月：令和4年10月

※調査主体：高槻市

※調査対象：中心市街地11地点における歩行者及び自転車

◆調査地点図



(単位：人)

	H28年度 (計画前年度)	H29年度 (1年目)	H30年度 (2年目)	R元年度 (3年目)	R2年度 (4年目)	R3年度 (5年目)	R4年度 (6年目)
A-03	2,747	3,217	4,446	4,666	5,147	4,381	4,846
B-04	11,229	11,952	11,766	12,530	10,476	9,270	11,121
B-06	5,457	5,527	6,083	5,921	5,776	5,188	5,592
B-07	10,982	9,486	11,540	11,528	10,850	9,715	9,890
B-10	14,969	16,200	16,582	16,038	13,528	12,556	14,661
B-12	7,341	7,292	7,953	8,389	7,527	7,103	6,294
B-25	6,017	6,673	8,277	6,423	6,410	5,648	5,494
B-27	7,658	7,200	7,244	7,381	6,737	6,071	5,841
B-28	2,385	2,689	2,741	2,088	1,590	1,929	2,344
B-29	2,216	2,013	2,540	3,359	3,353	3,792	3,500
B-30	1,969	2,121	2,270	1,992	1,705	2,455	2,158
合計	72,970	74,368	81,442	80,315	73,097	68,108	71,741

※地点毎に平日と休日の平均値を算出（四捨五入）。

〈分析内容〉

計画期間の最終年となる令和4年度の調査では、基準値・目標値ともに下回る 71,741 人/日（平日・休日の平均）という結果となった。

この要因の一つとして、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響が尾を引いたことが挙げられる。新型コロナウイルス感染症に関しては、令和5年にはピークを脱したとの見方もあるものの、散発的に実施された行動制限や長期間に渡る感染症対策の実施などにより、外出やイベント参加を控える動きが常態化したとも考えられる。

全体として実績値の低下がみられる一方で、令和3年度と比較すると増加に転じており、平日に限ってみれば目標を上回っている。また、JR高槻駅と阪急高槻駅間エリアから安満遺跡公園への主要導線である「B-29」地点については、開園（平成31年3月）以前と比べて毎年度高水準を保っており、安満遺跡公園が魅力ある拠点として街のにぎわいに寄与しているものと考えられる。

【参考：平日・休日の通行量内訳】

(地点) 符号	平日	休日	平均
	R4.10 晴れ	R4.10 曇り一時雨	
A-3	6,016	3,676	4,846
B-4	11,788	10,454	11,121
B-6	6,442	4,742	5,592
B-7	11,040	8,740	9,890
B-10	14,722	14,600	14,661
B-12	6,916	5,672	6,294
B-25	6,336	4,652	5,494
B-27	8,006	3,676	5,841
B-28	3,278	1,410	2,344
B-29	3,678	3,322	3,500
B-30	2,562	1,754	2,158
合計	80,784	62,698	71,741

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 4-5 安満遺跡公園整備事業（事業主体名：高槻市、（独）都市再生機構）

事業実施期間	平成24年度～令和2年度【済】
事業概要	京大農場跡地を含めた一帯を「安満遺跡公園」として整備し、歴史資産である史跡安満遺跡を保存・活用しながら、防災機能も備えた緑豊かな公園として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	防災公園街区整備事業（国土交通省）（平成24年度～令和2年度） 歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業（文部科学省）（平成26年度～令和2年度）

	史跡等購入費補助金（文部科学省）（平成26年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 1,370人/日 ・最新値 実数は計測不能 <p>通行量の増加を見込んだ B-27～B-30 については休日・平日の平均で385人/日の減少となった。</p> <p>令和3年3月に約22ヘクタール（甲子園5個分）の広大な緑のセントラルパークとして全面開園した。平成31年の一次開園以降、通行量は増加していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少に転じ、指標としては未達成となった。</p>
達成した（出来なかった）理由	令和2年度以降は大幅に減少していることから新型コロナウイルスの影響等によるものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	安満遺跡公園は連日多くの人でにぎわっており、特に週末・休日はイベントが毎週のように開催されており、中心市街地のにぎわい創出に大きく寄与している。
事業の今後について	歴史資産の活用の幅を広めるとともに、観光振興や商業振興の推進体制を強化していく。

②. 5-1 「高槻子ども未来館」の整備事業（事業主体名：高槻市）

事業実施期間	平成25年度～平成30年度【済】
事業概要	安満遺跡公園整備にあわせて隣接地に「高槻子ども未来館」を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高槻駅周辺（3期））（国土交通省）（平成29年度～平成30年度）</p> <p>子ども・子育て支援整備交付金（内閣府）（平成30年度）</p> <p>[認定基本計画：平成29年度～平成30年度]</p>
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 274人/日 ・最新値 実数は測定不能 <p>施設は予定通り完成し平成31年4月に供用開始している。</p>
達成した（出来なかった）理由	令和3年度に比して子どもの数が800名程度減少しており、未達成の要因になっていると推測される。
計画終了後の状況及び事業効果	施設は予定どおり完成し、認定こども園、子ども保健センター、子育て人材育成施設を備えた新たな拠点として機能している。
事業の今後について	子育て層の中心市街地の来街機会の増加につながる施設として適切に運営していく。

③. 7-20 魅力ある個店への出店支援（事業主体名：高槻市）

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	中心市街地を始め、市内に飲食店または小売店を新たに出店しようとする中小企業者に対し、店舗改装費の一部を「創業・個店支援事業補助金」により補助するとともに、関係機関と連携したフォローアップやPRを行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 1,320人/日 ・最新値 実数は計測不能 <p>平成29年度からの中心市街地への出店数は11件となり、最新値は605人/日と推定される。令和2年度から令和4年度にかけて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による出店数の減少などの状況が一部で見られ、事業は未達成となった。</p> <p>引き続き、本支援策のさらなる活用促進に向け情報発信を強化する。なお、新規出店者に対しては、希望に応じて商工会議所が実施する出前経営相談事業等と連携して継続したアドバイス等を行っている。</p>
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルスや物価高騰等の影響により、中心市街地への新規出店機運が大きく削がれたものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルスの影響が薄れる一方、物価高騰等の影響により引き続き新規出店には慎重な動きが見られる。
事業の今後について	令和4年度の対象出店件数は0件となった。引き続き関係機関と連携し、事業に取り組んでいく。また、本支援策のさらなる活用促進に向け、情報発信を強化する。

④. 7-12 民間事業者による複合施設整備事業（事業主体名：民間事業者）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	新たな機能導入に向けた複合施設の整備に向けた共同建替の推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 918人/日 ・最新値 実数は計測不能 <p>複合施設の整備に伴う入店者数増加により、事業完了後は918人/日の通行量増加を見込んだが、現在、整備の実施に向けて事業者や地権者等の当事者において協議が進められている。</p>
達成した（出来なかった）理由	本事業は複数の地権者・施設入居者間での調整を要する事業となっており、整備の方向性が関係者間でまとまりきらなかったことから事業実施に至らなかったことから引き続き協議を進めていく。
計画終了後の状況	関係者間でのコンセンサス形成は引き続き行われており、整備に向け

況及び事業効果	た機運は高まりを見せていると言える。
事業の今後について	引き続き関係者からの情報収集に努める。

⑤. 7-21 空き店舗等情報ストックバンク事業

(事業主体名：高槻都市開発(株)、各商店街)

事業実施期間	平成29年度～【未】
事業概要	中心市街地の空き店舗や空き倉庫等の情報を収集し、一元的に管理・活用する「空き店舗等情報ストックバンク」を立ち上げることで、中心市街地の空き店舗等の利活用を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 550人/日 ・最新値 実数は計測不能 中心市街地の空き店舗 10件を利活用し、事業目標値として、550人/日の通行量の増加を見込んでいたが、令和4年度時点で事業実施には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	情報収集をはじめとした実施体制の構築検討が進められていたが、新型コロナウイルスの影響もあり一時的な休業と空き店舗の情報把握が困難な状況が続いているおり、事業実施に至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	事業実施には至らなかったものの、空き店舗に関する情報収集に取り組んだことで関係者間での実情把握に寄与したと考えられる。
事業の今後について	空き店舗情報に関する情報集約および発信に向けた体制の確立に向け、事業主体に対し進捗の確認を継続する。

⑥. 7-1 空き店舗リノベーション事業 (事業主体名：芥川商店街事業協同組合)

事業実施期間	平成29年度～【未】
事業概要	商店街の既存の魅力を強化し、新たな来街客の呼び込みにつなげるために、商店街の店舗の空き店舗をリノベーションし、新たな機能の導入を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 275人/日 ・最新値 実数は計測不能 令和4年度までリノベーション事業としての実績はなく、未達成となった。
達成した(出来なかった)理由	リノベーションを想定していた物件が、所有者により他の形で活用されるなどの事情により事業実施に至らなかった。
計画終了後の状況	事業実施に至らなかったものの、結果として空き店舗が活用されたこ

況及び事業効果	とで商店街としてのにぎわい創出には寄与したものと考えられる。
事業の今後について	リノベーションによる魅力向上の効果が見込まれる物件については、今後も各所有者と協議を行う。 また、空き店舗の前のスペースについては「日之出町土曜市」などのイベントに活用し、にぎわいの創出を図る。

⑦. 4-13 高槻城公園整備事業（事業主体名：高槻市）

事業実施期間	平成28年度～令和8年度【実施中】
事業概要	市民会館の建替にあわせて高槻城公園を整備することでエリア内の回遊性を強化し、中心市街地区域の南側の核となる、新たな客層を取り込む施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集集中支援事業（高槻駅周辺地区（3期））（国土交通省）（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 1,415人/日（「5-5市民会館建替事業」、「7-16高槻城公園芸術文化劇場を活用した市民交流事業」、「高槻城公園等へのアクセス強化」との合算） ・最新値 実数は計測不能 <p>「5-5市民会館建替事業」と合わせて中心市街地区域南側への来街機会を創出し、通行量の増加を見込んでいたが、事業完了が通行量調査実施後となったため目標には達していない。</p> <p>令和4年度に完成した「高槻城公園芸術文化劇場」に合わせて、公園中央エリアの整備が完了した。</p>
達成した（出来なかった）理由	「5-5市民会館建替事業」は令和4年度に完了したものの、歩行者・自転車通行量調査の実施日以後であったため指標上は効果を確認できていない。
計画終了後の状況及び事業効果	市民会館は「高槻城公園芸術文化劇場」として令和5年3月18日に供用開始しており、多くの利用者でにぎわいを見せている。
事業の今後について	今後は公園の「北エリア」の整備が進む予定。

⑧. 5-5 市民会館建替事業（事業主体名：高槻市）

事業実施期間	平成28年度～令和4年度【済】
事業概要	市民会館をさらに文化振興の発展に資する施設として建て替えるとともに、隣接する高槻城公園を中心市街地における貴重な緑空間としてふさわしいものとするよう再整備に取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（高槻市城跡地区））（国土交通省）（平成29年度～令和4年度）

事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 1,415人/日（「5-5市民会館建替事業」、「7-16高槻城公園芸術文化劇場を活用した市民交流事業」、「高槻城公園等へのアクセス強化」との合算） ・最新値 実数は計測不能 建替によるバリアフリー水準の向上や施設設備の充実による公演・鑑賞事業の充実を図ると共に、新規施設として小ホールを設けることで、施設利用者の増加が見込まれることから通行量についても増加を見込んでいたが、令和4年度の通行量調査実施後に市民会館が「高槻城公園芸術文化劇場」として再整備されたため、目標には達していない。
達成した（出来なかった）理由	本事業は令和4年度に完了したものの、歩行者・自転車通行量調査の実施日以後であったため指標上は効果を確認できていない。
計画終了後の状況及び事業効果	市民会館は「高槻城公園芸術文化劇場」として令和5年3月18日に供用開始しており、多くの利用者でにぎわいを見せている。
事業の今後について	高槻城公園芸術文化劇場や高槻城の利用者によるにぎわいが持続されるよう、各取組を継続していく。

⑨. 7-16 高槻城公園芸術文化劇場を活用した市民交流事業
 （事業主体名：民間事業者）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	市民会館の建替を機に、高槻城公園を含む、周辺敷地を活用した市民の活動などを促進し、にぎわいをつくとともに、市民の来街機会を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 1,415人/日（「5-5市民会館建替事業」、「7-16高槻城公園芸術文化劇場を活用した市民交流事業」、「高槻城公園等へのアクセス強化」との合算） ・最新値 実数は計測不能 新たな市民会館での公演や鑑賞事業の実施に合わせ、有志グループによるイベントや商店街等と連携した取組を展開することで市民会館への来訪を促進し、通行量増加を見込んでいたが、令和4年度の通行量調査実施後に市民会館が「高槻城公園芸術文化劇場」として再整備されたため、目標には達していない。
達成した（出来なかった）理由	高槻城公園芸術文化劇場は令和5年3月18日に供用開始されたが、令和4年度内は周辺敷地での活動が困難であったことから、目標は未達成となった。
計画終了後の状況及び事業効果	市民会館は「高槻城公園芸術文化劇場」として令和5年3月18日に供用開始しており、多くの利用者でにぎわいを見せている。
事業の今後について	にぎわい創出につながる活動を行っている有志グループ等の把握に努める。

⑩. 8-3 高槻城公園等へのアクセス強化（事業主体名：高槻市）

事業実施期間	平成28年度～令和8年度【実施中】
事業概要	市民会館や高槻城公園の整備にあわせ、JR 高槻駅及び阪急高槻市駅から高槻城公園や市民会館へのアクセス強化に向け、案内サイン等の整備、周辺区域のデザインを参考にした景観形成を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 1,415人/日（「5-5市民会館建替事業」、「7-16高槻城公園芸術文化劇場を活用した市民交流事業」、「高槻城公園等へのアクセス強化」との合算） ・最新値 実数は計測不能 高槻城公園整備の供用開始に合わせて案内サイン等の景観形成が進められたが、令和4年度の通行量調査実施後に市民会館が「高槻城公園芸術文化劇場」として再整備されたため、目標には達していない。
達成した（出来なかった）理由	「5-5市民会館建替事業」は令和4年度に完了したものの、歩行者・自転車通行量調査の実施日以後であったため指標上は効果を確認できていない。
計画終了後の状況及び事業効果	市民会館は「高槻城公園芸術文化劇場」として令和5年3月18日に供用開始しており、多くの利用者でにぎわいを見せている。
事業の今後について	北エリアの整備に合わせ、新たなサイン等の整備検討を進める。

⑪. 4-12 民間事業者による駐輪場整備

（事業主体名：たかつき中通り本通り商業振興会）

事業実施期間	平成29年度～【未】
事業概要	自転車での来訪者の利便性の向上を図るため、自転車駐輪場（駐輪スペース）の整備を行い、来街機会の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 143人/日 ・最新値 実数は計測不能 自転車を受け入れる体制を整えることで商店街への来訪を促し、通行量増を見込んでいたが、当初予定していた土地には店舗兼集合住宅が建設されることとなったため、目標としては未達成となった。現在、他の土地における駐輪場の整備の可能性を検討している。
達成した（出来なかった）理由	当初駐輪場として予定していた土地には店舗兼集合住宅が建設されたため、事業実施には至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	新たに店舗が整備されたことで、一定の来訪者を創出しているものと考えられる。

事業の今後について

引き続き回遊性の向上に向けて、駐輪場の整備の可能性を検討する。

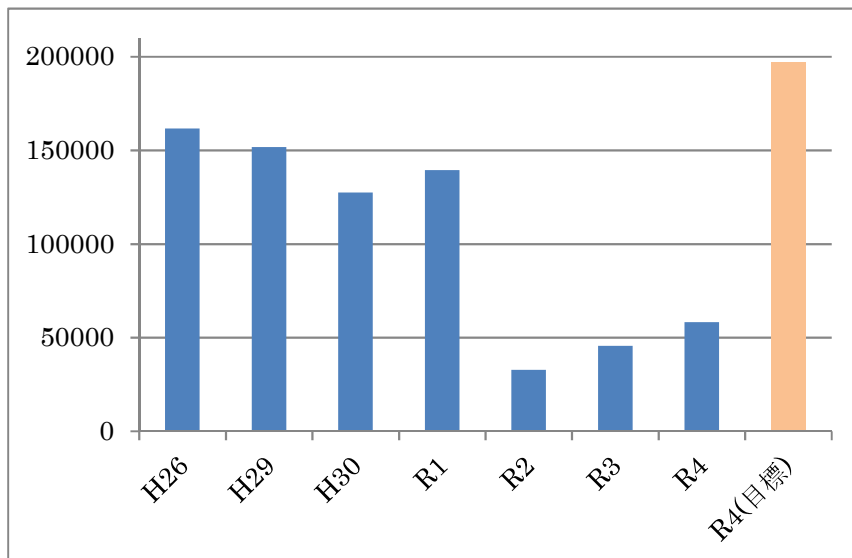
●今後の対策

令和3年3月に全面開業した安満遺跡公園に続き、令和5年3月に高槻城公園芸術文化劇場をオープンさせ、中心市街地における主要なハード面での整備は完了した。しかし、計画期間中に新型コロナウイルス感染症が発生したことにより、令和2年度以降は調査地点の多くで前年度に比べて歩行者・自転車通行量の減少が見られた。今後はコロナ終息に差し当たり、各主体による施設を活用した活動を支援するとともに、各企画・イベント同士や商業施設との連携を促進するなど、街の回遊性向上を図る。

目標指標（2）歴史・文化施設の年間利用者数（目標の達成状況【未達成】）

※目標設定の考え方：認定基本計画 P.71、P.77～81 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H26	161,601 (基準年値)
H29	151,637
H30	127,490
R1	139,320
R2	32,696
R3	45,624
R4	58,226
R4	197,000 (目標値)

※調査方法：市民会館の大ホール及び「市立しろあと歴史館」の年間来場者数を計測。

※調査月：通年（4月～翌年3月）

※調査主体：高槻市

※調査対象：市民会館の大ホール及び「市立しろあと歴史館」の来場者

◆調査地点図



※旧・市民会館…現在の「高槻城公園芸術文化劇場・北館」

(単位：人／年)

	H28年度 (計画前年度)	H29年度 (1年目)	H30年度 (2年目)	R元年度 (3年目)	R2年度 (4年目)	R3年度 (5年目)	R4年度 (6年目)
市民会館 大ホール	111,518	104,210	81,335	108,700	13,620	30,735	30,538
市立しろあと 歴史館	46,878	47,427	46,155	30,620	19,076	14,889	27,688
合計	158,396	151,637	127,490	139,320	32,696	45,624	58,226

〈分析内容〉

計画最終年となる令和4年度の実績は 58,226 人／年となり、対前年比では増加しているものの、目標値に対して大幅に低い結果となっている。これは、引き続きコロナが影響していることに加え、施設建替のため旧市民会館が令和4年7月に閉館し、高槻城公園芸術文化劇場が令和5年3月に開館するまでの間、利用できなかったことによる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 5－5 市民会館建替事業（事業主体名：高槻市）

事業実施期間	平成28年度～令和4年度【済】
事業概要	市民会館をさらに文化振興の発展に資する施設として建て替えるとともに、隣接する高槻城公園を中心市街地における貴重な緑空間としてふさわしいものとするよう再整備に取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（高槻市城跡地区））（国土交通省）（平成29年度～令和4年度）

事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 30,000人/年 ・最新値 高槻現代劇場大ホール 27,538人/年 高槻城公園芸術文化劇場トリシマホール 3,000人/年 (目標達成) <p>建替によるバリアフリー水準の向上や施設設備の充実による公演・鑑賞事業の充実を図ると共に、新規施設として小ホールを設けたことで、施設利用者の増加を見込んでいるが、令和4年度においては令和5年3月18日に高槻城公園芸術文化劇場として供用開始されたことで3,000人とどまった。一方で市民会館は閉館する令和4年7月までに27,538人の利用があったため、目標達成に至った。</p>
達成した(出来なかった)理由	令和5年3月18日に高槻城公園芸術文化劇場として供用開始されるまでの間利用ができなかったが、市民会館においては閉館する令和4年7月までに順調な利用があったため。
計画終了後の状況及び事業効果	市民会館は「高槻城公園芸術文化劇場」として令和5年3月18日に供用開始しており、多くの利用者でにぎわいを見せている。
事業の今後について	予定どおり事業は進捗しており、令和5年度には高槻城公園 芸術文化劇場の本格的な供用開始が予定されている。

②. 7-16 高槻城公園芸術文化劇場を活用した市民交流事業
(事業主体名：民間事業者)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	市民会館の建替を機に、高槻城公園を含む、周辺敷地を活用した市民の活動などを促進し、にぎわいをつくとともに、市民の来街機会を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 3,000人/年 ・最新値 なし(目標未達成) <p>新たな市民会館での公演や鑑賞事業の実施に合わせ、有志グループによるイベントや商店街等との連携した取組を展開することで市民会館への来訪を促進し、施設の利用増を見込んだが、令和4年度末までに具体的な活動がなかったことから目標は未達成となった。</p>
達成した(出来なかった)理由	高槻城公園芸術文化劇場は令和5年3月18日に供用開始されたが、令和4年度内は周辺敷地での活動が困難であったことから、目標は未達成となった。
計画終了後の状況及び事業効果	市民会館は「高槻城公園芸術文化劇場」として令和5年3月18日に供用開始しており、多くの利用者でにぎわいを見せている。
事業の今後について	令和5年度は、高槻ジャズストリートをはじめ様々なイベント等において、高槻城公園芸術文化劇場を拠点としたにぎわい創出にかかる活動が見込まれている。

③. 5-6 歴史・文化施設間の連携による集客性向上事業（事業主体名：高槻市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	本市を代表する文化施設である市民会館と、歴史博物館である市立しろあと歴史館の両施設が連携して相互情報発信等を行うことで、互いの集客力を高め、にぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 2,360人／年 ・最新値 なし（目標未達成） 新型コロナウイルスの影響により、積極的に事業を展開する状況ではなかったことに加え、令和4年7月の市民会館閉館から令和5年3月18日の高槻城公園芸術文化劇場供用開始までの間はしろあと歴史館との連携が困難であったため、目標達成には至らなかった。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルスの影響により、積極的に事業を展開する状況ではなかったことに加え、令和4年7月の市民会館閉館から令和5年3月18日の高槻城公園芸術文化劇場供用開始までの間はしろあと歴史館との連携が困難であったため。
計画終了後の状況及び事業効果	市民会館は「高槻城公園芸術文化劇場」として令和5年3月18日に供用開始しており、多くの利用者でにぎわいを見せている。 同劇場の周辺に城をイメージした石垣や堀を再現したことで、両施設に共通したテーマである「高槻城」をベースにした取組を進める基盤が整った。 また、劇場開館を記念して高槻城の御城印を作成し、両施設を含んだ高槻城のPRを行うことができた。
事業の今後について	令和5年度は同劇場において、高槻城主・高山右近を題材としたコンサート企画や、OSK 日本歌劇団によるミュージカル公演を予定する等、新たな取組が生まれ始めている。 引き続き相互情報発信をはじめとした連携を推進し、集客の向上を図る。

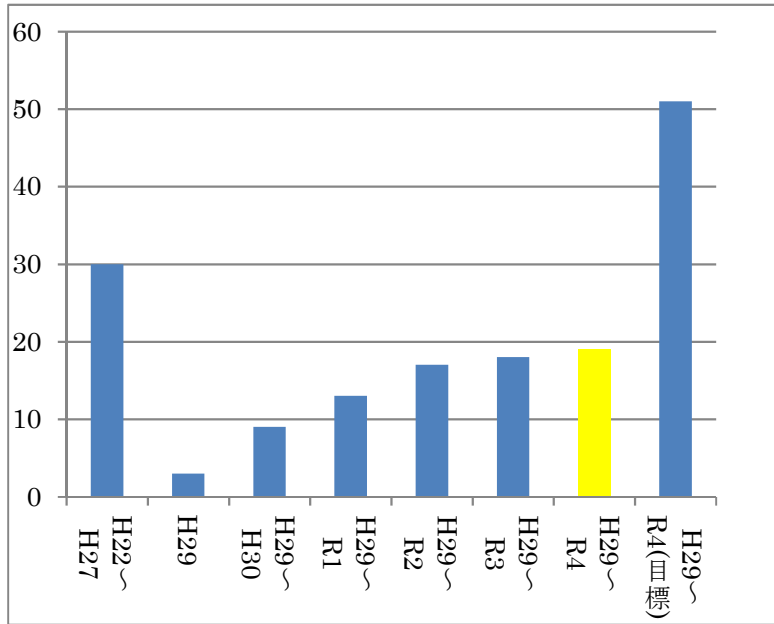
●今後の対策

今後はコロナ終息に差し掛かり、市民会館大ホールの芸術文化劇場としてのリニューアルによりにぎわい向上の気運も見られる中、各主体がこれらの施設を有効活用できるイベント等を年間を通じて企画し、市としても有志の活動を適切に支援するなどして集客性を高めていく必要がある。また、「高槻城」や「高山右近」、「戦国時代」などの関連性のあるイベントや展示などを両施設にて積極的に行っていくことで、本市の観光資源である歴史の観点での話題性を高め、市民の回遊を引き出すとともに市外からの来訪者の増加に繋がる取組を推進する。

目標指標（3）中心市街地の新規出店数（目標の達成状況【未達成】）

※目標設定の考え方：認定基本計画 P.71、P.81～83 参照

●調査結果と分析



年	(単位：件)
H22～H27	30 (基準年値)
H29	3
H29～H30	9
H30～R1	13
H29～R2	17
H29～R3	18
H29～R4	19
H29～R4	51 (目標値)

※調査方法：中心市街地において、高槻市の支援または「たかつき創業塾」を受講して創業・新規出店した店舗及び本計画の空き店舗対策施策を活用して出店した店舗数を計測。

※調査：通年（4月から翌年3月）

〈分析内容〉

中心市街地の新規出店者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、出店数が減少するなどの状況が一部でみられ、前回実績（1件増加）から横ばいの1件のみとなった。

これは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、新規出店に向けた機運へ影響を与えたことが要因として予想される。

本計画では平成29年度～令和4年度の累計新規出店数51件を目標としており、計画6年目となる令和4年度終了時点の累計出店件数は19件という結果となった。

令和3年度（18件）と比較すると、出店件数は堅実に増加しているものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に加え、物価高騰等の影響から、新規出店の大幅な増加が抑制されたものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 7-1 空き店舗リノベーション事業（事業主体名：芥川商店街事業協同組合）

事業実施期間	平成29年度～【未】
事業概要	商店街の既存の魅力を強化し、新たな来街客の呼び込みにつなげるために、商店街の空き店舗をリノベーションし、新たな機能の導入を図る。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 5件 ・最新値 0件（平成29年度から令和4年度までの累計） （目標未達成） <p>令和4年度までリノベーション事業としての実績はなく、未達成となった。</p>
達成した（出来なかった）理由	リノベーションを想定していた物件が、所有者により他の形で活用されるなどの事情により事業実施に至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	事業実施に至らなかったものの、結果として空き店舗が活用されたことで商店街としてのにぎわい創出には寄与したものと考えられる。
事業の今後について	リノベーションによる魅力向上の効果が見込まれる物件について、所有者との合意形成を図る。 また、空き店舗の前のスペースについては「日之出町土曜市」などのイベントに活用し、にぎわいの創出を図る。

②. 7-11 たかつき創業塾の開催（事業主体名：高槻商工会議所、高槻市）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	中心市街地を始め、市内での創業希望者に対して、創業に関して必要な知識を学ぶための連続セミナー「たかつき創業塾」を開催し、中心市街地のにぎわい創出につながる創業者の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 12件 ・最新値 8件（平成29年度から令和4年度の累計）（目標未達成） <p>新型コロナウイルス感染症による出店機運への影響が懸念される中、令和4年度の創業塾の受講生は、年度内の創業に向けて計画的に準備を行い、5件の創業を実現した。このうち1件が中心市街地における創業であった。</p>
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルスや物価高騰等の影響により、中心市街地への新規出店機運が大きく削がれたものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルスの影響が薄れる一方、物価高騰等の影響により引き続き新規出店には慎重な動きが見られる。
事業の今後について	商工会議所が実施する創業支援事業等と連携しながら支援に取り組んでいく。

③. 7-20 魅力ある個店への出店支援（事業主体名：高槻市）

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	中心市街地を始め、市内に飲食店または小売店を新たに出店しようとする中小企業者に対し、店舗改装費の一部を「創業・個店支援事業補助金」により補助するとともに、関係機関と連携したフォローアップやPRを行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 24件 ・最新値 11件（平成29年度から令和4年度の累計） （目標未達成） <p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、同補助金を利用した個店による中心市街地エリア内での出店はなく、目標は未達成となった。</p>
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルスや物価高騰等の影響により、中心市街地への新規出店機運が大きく削がれたものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルスの影響が薄れる一方、物価高騰等の影響により引き続き新規出店には慎重な動きが見られる。
事業の今後について	令和4年度は0件の出店となった。引き続き関係機関と連携し、事業に取り組んでいく。 また、本支援策のさらなる活用促進に向け、情報発信を強化する。

④. 7-21 空き店舗等情報ストックバンク事業（事業主体名：高槻都市開発株式会社、各商店街）

事業実施期間	平成29年度～【未】
事業概要	中心市街地の空き店舗や空き倉庫等の情報を収集し、一元的に管理・活用する「空き店舗等情報ストックバンク」を立ち上げることで、中心市街地の空き店舗等の利活用を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 10件 ・最新値 0件（平成29年度から令和4年度の累計）（目標未達成） <p>事業の実施に向けて検討を行った。 「空き店舗等情報ストックバンク」の立ち上げにより、令和4年度までに空き店舗等10箇所を活用して回遊性の向上を図る予定であったが、令和4年度時点で事業実施には至らなかった。</p>
達成した（出来なかった）理由	情報収集をはじめとした実施体制の構築検討が進められていたが、新型コロナウイルスの影響もあり一時的な休業と空き店舗の情報把握が困難な状況が続いているおり、事業実施に至らなかった。
計画終了後の状況	事業実施には至らなかったものの、空き店舗に関する情報収集に取り

況及び事業効果	組んだことで関係者間での実情把握に寄与したと考えられる。
事業の今後について	空き店舗情報に関する情報集約および発信に向けた体制の確立に向け、事業主体に対し進捗の確認を継続する。

●今後の対策

新型コロナウイルス感染症の影響で新規出店の気運が大きく下がる中、令和2年度以降はいずれの年においても年に1件と低水準での新規出店件数となっている。今後、コロナ終息に差し掛かり、本市が実施する創業支援における主要事業である「たかつき創業塾」について、共催している高槻商工会議所との密な連携により、その内容や広報の方法をより受講者を募ることができるように磨き上げるとともに、創業者への補助金制度についても情報発信を拡充して利用者の増加、創業ムードの醸成を図る。